

教育と文化



SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

「思いや考えを伝えましょう」

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎ 2115

先日、『男女共同参画の視点を生かす地域づくり講座』に参加しました。その中で、講師が「日本の男女共同参画は、戦後に始まりました。今は、男女共同参画に関する教育が進み、個人の意識の改革は進んできています。しかし、政治に関わる女性の割合は、実際的に見ると非常に低い評価であり、日本の女性は、もっと政策決定の場に出ていくべき」と言われました。

東京都知事や東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の会長は、女性です。9月に行われた自民党総裁選に立候補した女性の国会議員と、10月に行われた佐賀市議会議員選挙の女性の当選者は、過去最多です。伊万里市議会では、2人の女性議員が活躍されています。

「女性も頑張っている！」と言いたいところですが、確かに、政治の世界に占める女性の割合は、まだまだ低いです。

だからこそ、たくさんの方に挑戦してもらいたいです。そのためにも、まず、地域や組織、団体などの中で、施策の決定過程に、参画してもらいたいと思っています。「私でよければ、やります」、「頑張ってみます」と言って、積極的に役員などを引き受け、自分の意志や考えを周りの人たちに伝えてみましょう。

『地域づくり』や『組織づくり』、『家庭づくり』では、男性も女性も自分の思いや考えを積極的に、声に出すことが必要です。また、男女や夫婦間においては、お互いを思いやりながらも、言いたいことを言い合える関係であってほしいと思います。

そういう行動が、持続可能な開発目標・SDGs（エスディーズ）の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」につながるのではないのでしょうか。

（伊万里市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』委員）

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ「埋葬遺構を中心として」⑭

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 1262

大光寺遺跡の近世墓群

（松浦町大光寺 平成2・3年調査）

「あなたと一緒にのお墓には、入りたくないわ」と、テレビドラマで使われるようなこの言葉は、江戸時代にはありませんでした。

なぜなら、現在は亡くなり、火葬されたあとに、家や家族単位の墓の中に入りますが、江戸時代の埋葬は土葬であり、墓1基に一人が埋葬されていたからです。棺桶も現代のものとは違い、桶や甕かめに、座った形で安置されます。伊万里では、棺桶に甕を使うことが多かったようです。

大光寺遺跡では、地表面より50〜60センチ下で、旧石器時代から縄文時代にかけて（3万年前〜8千年前）石器を製作していた跡を確認しました。また、地表面には墓石が残っている近世墓群があり、調査をしました。



↑大光寺遺跡の近世墓群

墓石には、亡くなった年号が刻まれていて、その下に、棺桶として使われた甕があることから、甕が存在していた年代が明確に分かる良好な資料となり、また、人骨を調べることで、骨格の変化が分かり、現代人の骨格が、今後どのように変わっていくのかを知る貴重な資料となります。